

監査結果報告書

2014 年 5 月 22 日

社会福祉法人保健福祉の会 殿

監 事 佐藤 晃敏



監 事 能塚 耐子



私たち監事は、社会福祉法第 40 条および関連法に基づき2013年度(2013 年 4 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日)の監査を以下のとおり実施しましたので報告します。

監査日時 2014 年 5 月 19 日(月)9 時 30 分～15 時 30 分

監査場所 都和のはな3階会議室

立 会 人 川原法人常務理事、田村法人事務局員、磯部老健西の京事務長、山内老健西の京事務主任、猪熊特養都和のはな施設長、小林グループホーム都和のはな管理者、近藤白い鳩保育園園長、上田洛西保育園園長、西あらぐさ保育園園長 田村障がい児通所支援事業所管理者

監査結果

1. 社会福祉法人保健福祉の会の2013年度財務諸表及び総勘定元帳、会計伝票、証拠書類の点検照合を行いました。違算なく合致しており適正に処理されていることを認めます。

2. 法人および各事業所

(1) 法人の結果

介護・保育・障害の各分野で、厳しい情勢と「闘い」ながら、「利用者・子どもの立場に立った」事業の維持・発展に努めてこられた役職員の皆様に敬意を表します。

2013年度は、吉祥院保育所移管先応募・選定、第3の障がい児通所支援事業の開設準備など新規事業への挑戦をされてこられました。

2014年度も、ひきつづく厳しい状況のもとで更に事業を維持し発展させられることを心より期待いたします。

2013年度の法人合算では、当期活動増減差額 2,276 万円(収益比 1.8%)の黒字となっていますが、介護事業合計は▲1,922 万円の赤字という厳しい結果となっています。事業活動のサービス活動収益は 12 億 8,796 万円となり、前年対比でみれば▲511 万円の減(前年比 99.6%)となりました。事業毎では、介護事業▲694 万円の減(前年比 99.0%)、保育事業 170 万円の増(前年比 100.3%)、障がい児通所支援事業▲350 万円の減(前年比 95.5%)となりました。障がい児通所支援事業は京都市の補助金 400 万円の削減が大きく影響しています。また、保育事業の収益に処遇改善補助金 821 万円が入っており、実質は▲651 万円の減となっています。

経営を支えてきた保育事業の今後の厳しさがあらわれています。介護事業とりわけ老健西の京の経営改善は早急な課題となっています。

100 万円以上の投資は西の京空調(約 1,700 万円)、あらぐさ保育園建物改修(約 710 万円)、白い鳩保育園空調(約 318 万円)、法人事務局自動車(約 160 万円)となっています。

財務面では、総資産は 25 億 2,658 万円で前年度より▲3,792 万円の減少となっています。固定資産は、設備・構築物の増加がありますが、積立金の増減、減価償却の差引で▲2,151 万円の減少となっています。

負債は、8 億 3,085 万円で前期より▲4,393 万円の減少となっています。新たな借入金もなく、長期借入金返済は予定通り 4,198 万円の返済をおこなっており財務面は安定しています。

理事会の出席率は 100%(前年度 96.8%)、評議員会は 81.6%(前年度 97.1%)となっており、評議委員会出席率が前年より後退しています。ひきつづき、全員出席ができるよう努めてください。

(2)各事業所・施設の結果

【白い鳩保育園、洛西保育園、あらぐさ保育園】

今年度も各園定員を超えた状況でスタートし、年間延べ園児数は、白い鳩保育園 1,651 名(一ヶ月平均 138 名 前年比 100.9%)、洛西保育園 1,825 名(一ヶ月平均 152 名 前年比 101.7%)、あらぐさ保育園 693 名(一ヶ月平均 58 名 前年比 100.3%)となっています。

白い鳩保育園は、園長交代を見据えた人事で常勤職員が 1 名増の配置の中での運営を進めました。園創立 60 周年のつどいを 2 月に開催し、保護者・OB・職員等 80 名を超える参加者がありました。洛西保育園は、園舎が広くなったことを生かし、定員外の入園児を積極的に受入れています。あらぐさ保育園は、年度の早い時期から施設の受入れ枠の限界となり、地域からの途中入所の要望に応えられない状況が続いています。職員体制は、常勤職員の休職、派遣職員で体制をとるなど厳しい体制の 1 年となりました。園創立 40 周年の記念まつりを 11 月に開催し、保護者・OB 保護者・OB 職員等の多くの参加者がありました。

決算の特徴では、サービス活動収益は、処遇改善補助金を除くと、全体で▲651 万円の減となっています。当期活動収支差額は、白い鳩保育園(支出増で 11 万円の黒字、前年比 1.5%)、洛西保育園(収入微増等で 2,540 万円の黒字、前年比 144.5%)、あらぐさ保育園(収入減、支出減、保育連盟からの改築資金もあり 295 万円の黒字、前年は赤字)となりました。

プール制変更の激変緩和もなくなり収入確保は厳しい状況になることは明らかです。職員配置面での三園でのバランスのとれた配置をおこなうとともに今後の対策を検討してください。

【障がい児通所支援事業】

今年度も「待たないですぐに療育を受けられる施設に」をめざして早期療育に取り組んでできました。

利用者状況は、パーチェ 3,379 名/年間(1 日あたり 11.6 名 前年比 97.8%)、第二パーチェ 3,010 名/年間(1 日あたり 10.3 名 前年比 102.3%)となっています。発達相談所の紹介があり空きのない状態でスタートしました。母子通園の大切な課題「親グループ」の開催をめぐって、保護者から要望が出されており年度後半の個別面談や療育計画作成等により開催頻度が減少している事については今後の課題となっています。

決算の特徴は、サービス活動収益はパーチェ前年比 93.9% 予算比 100.6%、第二パーチェ前年比 97.2% 予算比 105.1%、合計で前年比 95.5%(△350 万円減)予算比 102.7%となりました。前年よりの減少はいずれも京都市からの補助金 200 万円が廃止となったことによるものです。補助金の減額を除けば、前年比 101.1%と増額となります。サービス活動費用は、人件費、事務費、事業費の全ての費用を予算内に収まっており、当期活動増減差額は、パーチェ 310 万円、第二パーチェ 305 万円とともに予算を超えた黒字となりました。

厳しい状況のなかでも、引き続き黒字を確保されるよう期待いたします。

【特養都和のはな・グループホーム都和のはな】

特養は、入居者 20 名の満室で、稼働率は 98.0%(予算 98.0%)となりましたが、入院が 6 名(入院日数 88 日)、3 名が亡くなれば次の入居者が入居されるまでに 61 日の空白期間をうみ課題を残しました。職員の欠員を年間通して埋めることが出来ず(数名の派遣導入を行ったが結果的に定着できなかった)、厳しい状況が続きました。

グループホームは、入居者 9 名の満室ですが、稼働率は 96.7%(目標 97%)となりました。入院者は 4 名・7 回・77 日となりました。介護量の増加等に伴い、短時間パートの導入や日常業務の見直しをはかり、対応しています。2 名の非常勤の退職がありましたが、派遣等による職員の確保をおこなっています。

決算の特徴は、特養は当期活動増減差額で▲39 万円の赤字(予算比▲161 万円の減)となっています。赤字要因は、感染症の広がり・入居受け入れ等による収益減や新規常勤職員の賞与引当金、派遣の人件費の増加(予算に加味できていない)となっています。

グループホームは当期活動増減差額で 281 万円(予算比 189.8%)の黒字となりました。2 年連続の黒字計上で、繰越活動増減差額は▲376 万円となり、開設に要した費用等についても回収の展望が見えてきました。

特養、グループホームとも 2014 年度においては着実に黒字確保に努めていただきたい。

【ケアステーション虹の家】

訪問介護等の件数は月平均で 49.8 名と前年比 118.2%増となっています。居宅支援の件数は、51.3 名/月となり、前年から大幅増となっています。両事業とも、年度末に管理者交代もあり、職員体制の補強を行っています。

決算の特徴は、サービス活動収益で、訪問介護は前年比 105.0%、予算比▲16 万円の減、居宅介護支援は前年比 110.3%、予算比▲18 万円の減、収入合計で前年比 105.2%、予算比▲34 万円の減となりました。

サービス活動費用は、予算比 111.4%(283 万円の増)、管理者交代に伴う人件費が予算比 289 万円増となりました。その結果、今年度の当期活動増減差額は▲51 万円の赤字となっています。

新たな体制のもとでもひきつづき利益確保の努めてください。

【介護老人保健施設西の京】

利用者状況は、長期入所者 31,872 名(前年比 101.1%)、ショート入所者 1,496 名(前年比 73.2%)、入所の稼働は 93.3%(前年比 99.4%)となりました。通所は、一日当たり 32.6 名と予算目標 34 名に届かず、前年比は 100.1%とほぼ同数となりました。居宅介護支援数は、69.8 名/月平均と目標の 70 名に接近し、前年比 101.0%と伸ばしています。入所待機者の確保は大変難しくなっています。前年に続いて個室の活用をショートから在宅復帰の利用者を優先にミドル利用の運用に切り替える等対応してきています。管理委員会・入退所判定会議等でベット運用の強化を図っていますが、引き続き重点課題となっています。在宅復帰率 30%を目指し、利用者の疾患管理の強化や「在宅生活継続の支援強化」を意識した受入れを進め、在宅復帰率は 30.8%となりました。

決算の特徴は、事業収益は入所の利用者の確保が難しく、長期入所は予算比 95.3%(▲1,981 万円の減)前年比 100.6%、短期入所は予算比 78.1%(▲585 万円の減)前年比 73.3%となっています。通所は、前年比 99.0%、予算比 95.8%(▲455 万円の減)となった為、サービス活動収益合計は予算比 94.6%(▲3,057 万円の減)、前年比 98.7%に留まりました。事業費用は、収入不足が大きいなかでも予算比 98.6%となり、経常増減差額で▲545 万円(予算比▲2,056 万円の減)の赤字、償却期間の残った空調の除却 604 万円も影響して、当期活動増減差額は▲2,113 万円の厳しい結果となりました。

介護老人保健施設西の京での経営改善は、法人全体での利益確保の構造変化のなかで緊急の課題です。2014 年度は着実に予算を達成されるよう努めてください。

以上